X54a　あかり NEP Deep Field のチャンドラ X 線源同定と、埋もれた AGN の探索

宮地崇光（メキシコ国立自治大学), AKARI NEP Survey Team

AKARI 衛星 IRC で 2-24 μ m を９バンドで連続的にカバーするという、ユニークな観測による北黄極領域周辺の深及び広域レガシーサーベイデータは、AGN トーラスの高温ダスト成分の検出に威力を発揮する。JWST では、その視野の狭さから、特に中間赤外域で、同様の広さの領域を多くのバンドでカバーするには、時間がかかるであろう。この領域では、多波長フォローアップ観測が続けられており、また、Euclid 衛星での深サーベイ観測領域にも選ばれている。フォローアップの一貫として、我々は、北黄極の深サーベイ領域での Chandra 衛星による X 線観測を行なった。それにより得られた、吸収後の X 線光度あるいはその上限値、と、AKARI、Herschel、Spitzer、CFHT、 Subaru　 HSC 等のデータを使っての SED 解析より得られた、AGN の赤外域トーラス熱放射成分の光度との比をとることにより、埋もれた AGN 探索をおこない、１００個を超える Compton-thick な吸収を受けた AGN の候補をみつけた。本講演では、X 線源の、特に HSC の対応天体の同定と、埋もれた AGN 探索の結果について報告する。